平成22年度事務事業評価表（平成21年度振り返り）

政策名	快適な都市環境が整ったまち

施策番号・名	24	交通安全の推進

基本事業番号・名	24-01	交通安全施設の整備

事務事業番号	所管課係名 事務事業名		事務事業の目的（事務事業の対象、手段、意図）	対象指標（対象の数値指標化） 指標	実績値（単位）	活動指標（手段の数値指標化） 指標	実績値（単位）	成果指標（意図したことの結果の数値指標化） 指標	実績値（単位）	事業費（実績額）①	人件費（理論値）②	トータルコスト ①+②	改革・改善の余地（目的妥当性・効率性・有効性・公平性から）	改革・改善の余地を踏まえた平成23年度以降に向けた事務事業の方向性（所管課長記入欄）
24-01-01	施設管理課 道路河川施設担当	対象	交通安全施設（反射鏡・防護柵等）	交通安全施設数	平成21年度 6,936 （数）	市民よりの要望件数	平成21年度 67 （数）	道路反射鏡・防護柵等の修繕件数	平成21年度 56 （件）	平成21年度 6,351	平成21年度 1,588	平成21年度 7,939	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）：アウトソーシング 改善の余地：■ あり　□ なし 市道利用者を交通事故から未然に防ぐため、老朽化した交通安全施設（道路反射鏡、防護柵等）の補修が必要であり、事務事業としては、今後も存続する必要がある。	選択項目：所管課長名 説明（選択理由）：施設管理課　古澤毅彦 23年度以降に向けた方向性：アウトソーシング 老朽化した施設の管理については、全般的に第三者機関に管理委託することが望ましい。
	交通安全施設維持管理事業	手段	道路反射鏡等の破損時においては、現場実査をして業者へ修繕依頼をする。安全管理台帳の整備等をして修繕依頼の迅速な手続きを行った。		平成20年度 6,770 （数）		平成20年度 70 （数）		平成20年度 60 （件）	平成20年度 6,038	平成20年度 1,555	平成20年度 7,593		
		意図	安全施設を適正に管理することにより交通事故を防止する。		平成19年度 6,892 （数）		平成19年度 75 （数）		平成19年度 68 （件）	平成19年度 5,904	平成19年度 1,551	平成19年度 7,455		
24-01-02	施設管理課 道路河川施設担当	対象	車両・人（通行者）	交通量調査場所の通過車両	平成21年度 — （台）	交通量調査個所数	平成21年度 — （箇所）	信号機、横断歩道の設置件数	平成21年度 4 （箇所）	平成21年度 0	平成21年度 1,239	平成21年度 1,239	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 信号機、横断歩道等を所轄警視庁に要望していく中で、現状の交通量を把握するため、事務事業としては、今後も存続する必要がある。	選択項目：所管課長名 説明（選択理由）：施設管理課　古澤毅彦 23年度以降に向けた方向性：現状維持 交通安全事業を実施するにあたり、交通量の現状を把握することは事業を左右するものであるため、市が実施する必要がある。
	交通量調査事業	手段	信号機・横断歩道の要望個所における通過車両を調査し管轄署に要望として提出		平成20年度 4,981 （台）		平成20年度 1 （箇所）		平成20年度 1 （箇所）	平成20年度 0	平成20年度 1,214	平成20年度 1,214		
		意図	交通環境の整備（信号機・横断歩道等）		平成19年度 — （台）		平成19年度 0 （箇所）		平成19年度 3 （箇所）	平成19年度 0	平成19年度 1,211	平成19年度 1,211		
24-01-03	施設管理課 道路河川施設担当	対象	市民（道路利用者）	市民（人口）	平成21年度 114,807 （人）	道路反射鏡・防護柵等の設置及び修繕数	平成21年度 117 （箇所）	市内の道路を通行するときに危ないと思う市民の割合（施策評価アンケート「市内の道路を通行するときに危ないと思う」で「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」の割合）	平成21年度 70 （%）	平成21年度 11,561	平成21年度 4,221	平成21年度 15,782	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 市道利用者を交通事故から未然に防ぐため、危険個所に交通安全施設（道路反射鏡、防護柵等）を設置するため、事務事業としては、今後も存続する必要がある。	選択項目：所管課長名 説明（選択理由）：施設管理課　古澤毅彦 23年度以降に向けた方向性：現状維持 危険個所を把握し、対策を講じる必要性のある箇所の抽出など、今後も継続していく。
	交通安全施設整備事業	手段	交通安全施設要望に対する現場調査を行い、必要な安全施設の設置等の対応をした。道路反射鏡、防護柵、警戒看板等の新設。道路環境、（通学路等）の点検を実施した。		平成20年度 114,418 （人）		平成20年度 87 （箇所）		平成20年度 68 （%）	平成20年度 11,643	平成20年度 4,135	平成20年度 15,778		
		意図	安全施設を整えることにより安心して通行できる。		平成19年度 114,376 （人）		平成19年度 87 （箇所）		平成19年度 68 （%）	平成19年度 10,616	平成19年度 4,124	平成19年度 14,740		
24-01-04	施設管理課 道路河川施設担当	対象	市内の道路利用者（車両・歩行者）	市民（人口）	平成21年度 114,807 （人）	道路照明設置基数	平成21年度 56 （基）	薄暮から夜間帯（午後４時から午前６時まで）にかかる人身事故件数	平成21年度 227(608) （件）	平成21年度 6,617	平成21年度 4,743	平成21年度 11,360	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 薄暮帯から夜間において、自動車、オートバイ、自転車が交通災害を未然に防ぐため、事務事業としては、今後も存続する必要がある。	選択項目：所管課長名 説明（選択理由）：施設管理課　古澤毅彦 23年度以降に向けた方向性：現状維持 交通安全対策事業としての補助制度もあるが、防犯灯整備を含めて事業の効率化を行うことが必要である。
	道路照明整備事業	手段	交通事故の多発地域の現場調査を行い、照度の低い交差点を中心として照度の改善をした。東京都に設置計画を提出して翌年度の予算化を図った。現場調査、設置手続き調査、都との打ち合わせ、設置工事（委託）現場確認を行った。住民からの要望等に対応した。		平成20年度 114,418 （人）		平成20年度 60 （基）		平成20年度 232(621) （件）	平成20年度 6,494	平成20年度 4,647	平成20年度 11,141		
		意図	薄暮帯から夜間において、ドライバー（自動車、オートバイ、自転車）に対し人影を認識させることで交通事故を未然に防ぐ。		平成19年度 114,376 （人）		平成19年度 67 （基）		平成19年度 208(558) （件）	平成19年度 7,081	平成19年度 4,634	平成19年度 11,715		